

■ 結婚・婚活に関する意識調査 分析

(令和2年度 南木曾町結婚推進事業)

設問	特徴的な回答結果をピックアップ	専門家による分析と町の見解
■今後、事務局からの追加調査などにご協力いただけますか？	【OK】 独身男性50% 既婚男性50% 独身女性50% 既婚女性67%	町が結婚支援をすることに意欲的なのが既婚女性でした。「追加調査など協力が可能な人は数名存在する」という結果は、来年度以降の取り組みに活かしていけないのではないかと考えられます。
【Q1】[独身の方] 結婚の希望について	【結婚したい】 男性78% 女性89%	結婚に対しては、男性がやや消極的な結果となりました。結婚希望者への設問では、急いでいない男性のほとんどが20代で、女性は早いうちから結婚を意識している傾向でした。男女ともに「数年以内」を希望する方が多い一方で、活動していない方も多い結果となりました。
【Q2-A】[Q1で結婚したいとお答えの方] の具体的な希望について	【すぐにでも】男性15% 女性0% 【急いでいない】男性35% 女性38% 【数年以内】男性30% 女性50%	結婚願望はあるものの「偶然の出会い」「運命」「自然な出会い」を求めている状況であり、結果的に受動的になり、南木曾町でも国内全域で発生している少子化の縮図になっています。「結婚できたらいいな」と思っているだけで、当事者意識が低く、危機感なく時間を過ごしているように感じられました。年齢が上がるごとに結婚できる確率は下がる(国の調査結果より)一方で、危機感がない状況のため、全体的に気持ち(意識)づくりをしていく必要があると考えられます。
【Q2-B】[Q1で結婚したいとは思わないとお答えの方] 差し支えなければ理由などを教えてください。	興味がない/独身の方が気楽でいいから。結婚は責任重大で、自分には務まらないと思ったから。/金銭面等/不要/結婚したいと思わないから	なお、「結婚を希望しない」と回答された方の分析としては、世間的に結婚が「個人の自由」と認識され始めたことで、若者が結婚に対して「したい/したくない」の2択で考えるようになり、少子化の主な原因のひとつでもあります。「個人の自由」の捉え方の違いが南木曾町にも起こっていると思われる。多くの人が「貴重な幸せのチャンス」や「苦勞の先の幸せ」を放棄しているように考えられます。
【Q3-A】[独身の方] 現在、結婚に対してどのような活動をされていますか？※複数回答可	男女共に【友人・知人の紹介(合コン含む)】【何もしていない】	「結婚によって得られるものは何か」「結婚をする/しないの選択は、どうしたら後悔しないのか」など、専門家よりセミナー動画で解説していただきたいと考えます。
【Q3-B】[既婚の方] 結婚前にどのような活動をされていましたか？ ※複数回答可	【友人・知人の紹介】【合コン】の合計が67% 情報収集が若干名	既婚者も含め、受動的な傾向が見られましたが、既婚者の方は、合コンなどで積極的に出会いを求めたのではないかと推測されます。
【Q4】[共通] 現状の地域や行政(役場)に思うこと感じることを教えてください。	「若者が少ない」「何をしてるか知らない」「気軽に参加できるイベントを」「無難なことではなく思い切ったものを」「私的なことに介入すべきではない」など多数	多数の貴重な意見が抽出されましたが、基本的に情報不足に陥っていることが考えられます。発信側の問題と、受信側の問題が解決されていません。受信者の意識を変えるような発信手法が求められていると考えられます。
【Q5】[共通] 南木曾町役場が婚活事業に取り組むことについてどう思われますか？	【良い(とても良い・まあ良い)】計68% 特に女性(独身・既婚計)で77%	この後の設問とセットで考えたとき、「良い」とは言うが、「やる」とは言わない傾向があります。現代の若者の傾向がこの地域にも当てはまり「人まかせ」な傾向が見られます。
【Q6】[共通] もし、ご自身が参加するならば、どのような形式を希望しますか？(既婚の方は、「自分が独身なら」または「独身に勧めるなら」) ※複数回答可	【自然体験】44% 【合コン】26% 【お見合い】14% 【セミナー】5%	結婚への危機感が高まり、婚活イベントなどを経験する方が増えてくると「体験系イベント」が非効率的で、「お見合い」や「セミナー」が重要であると気づいていく傾向があります。 今回の調査では、体験系イベントの需要が高い結果となりました。「参加者を多く集める」ことに焦点を絞れば体験系のイベント開催となりますが、実際に「成婚者を増やす」結果を重視して考えると、自然体験系のイベントは成果が低く、本人たちの婚活にかかる時間も長くなってしまおうと思われれます。(イベント/合コンは、出会いの機会創出だけでなくサポートをすることが成婚につながりやすくなります。) また、最新の婚活事情の知識や認知に遅れがあり、危機感が低いことがわかりました。

設問	特徴的な回答結果をピックアップ	専門家による分析と町の見解
【Q7】2019年、木曽郡6町村連携の婚活イベント『突撃！木曽男子はいかがでしょう？（名古屋市開催）・木曽乙女はいかがでしょう？（松本市開催）』を開催し、約20組の連絡先交換に成功しました。これについてお伺いします。		
A) [共通] このイベントについてご存知でしたか？	【知らなかった】49% 【知っていた・聞いた覚えがある】51%	全体の半分（2人に1人）の認知は、かなり高い認知率と思われます。イベントチラシやポスターの店舗設置などに、かなりの効果があったと考えられます。
B) [共通] 開催や結果について、どう思われましたか？	【とても良い・驚いた】全体合計70% （驚いた：既婚女性5名） 【何も感じない】24%	告知効果が大きく表れました。ただし「何も感じない」の24%が危機感不足、つまり情報不足の割合と考えられます。 「特に何も感じない」という回答は、独身者の20～29歳が多かったものの、男性は若いときは結婚に対する意識が低いためだと思われる。しかし、30代後半～の独身者も数名が「特に何も感じない」と回答されていたので、危機感不足、未婚状態の原因の一つではないかと思えます。
C) [独身の方] 今後、開催する場合、参加したいですか？	【絶対参加したい】0% 【参加に前向き（連絡は欲しい含む）】38% 【参加に後ろ向き】63%	「婚活」や「突撃」のハードルを高く感じている可能性が見られます。ライトなものから始めたいという、たくさん時間を浪費してしまう傾向が見られます。
【Q8-A】[独身の方] 結婚にまつわるサポートとして、どのような支援を求めていますか？※複数回答可	【イベント情報】26%（主に男性） 【イベントの開催】19%（主に女性） 【お見合い相手の紹介】17%（主に30代男性）	「イベント情報」が最も多いのは、『いいものがあれば出たい』という心理の表れと見ることができます。つまり『ストレスの回避傾向』が見られました。これも現代の少子化の主要因のひとつです。
【Q8-B】[既婚の方] 結婚にまつわるサポートとして、独身の方にどのような支援があるといいと思われますか？※複数可	【イベントの開催】30%	特に「イベントの開催」にウエイトがありました。独身者はストレス回避傾向ですが、既婚者は、実際に動き、出会うことを推奨しています。
【Q9】2019年度の婚活事業での参加者や、お伺いしたご意見やご要望などを集約し、2020年度、独身男性へ『名古屋（東海圏）の女性とのお見合いイベント』独身女性へ『結婚情報やノウハウを学べるセミナーや座談会』を計画しています。これについてお伺いします。		
A) [共通] 計画について、どう思われましたか？	【とても良い・まあ良い】合計72%	『やることは良い』とは答えるものの、自分自身は参加しない・既婚者の半数が独身者に勧める行動には移らない…という傾向が見られました。 潜在的な危機感が薄く、地域の課題や危機に対して当事者意識が非常に薄い傾向が見られました。
B) [独身の方] 参加希望について	【参加に後ろ向き】92%	
C) [既婚者の方] 独身の方への共有	【独身者に勧める】51%	
【Q10-A】[独身の方] 【Q10-B】[既婚の方] 結婚相手に求めることについて下記からお選びください。※上位3つまで <input checked="" type="checkbox"/> してください。	【性格（自分との相性）】 【趣味】が共通して集中傾向	婚活の情報の浸透が進んだり、結婚に対する意識や危機感が高まると、仕事や経歴、家族などの選択が増えてくることが推測されます。 「流れにゆだねる」という言葉は良くも悪くも使えますが、結婚について意識的に考えている方が、ごく少数と推測することができます。 「性格」「趣味」は、独身者はきっかけとなる「何か」や、話しやすさ（関係の進めやすさ）を求めているようにも感じました。
【Q11-A】[独身の方] ご自身の結婚に対する自己評価についてお伺いします。 A) 結婚への準備（心理面） B) 結婚への準備（物質面） C) 【不足点・必要なサポート】	【心理面（平均）】男性2.71 女性4.29 【物質面（平均）】男性2.95 女性4.43 ※10点満点中 【不足点・必要なサポート】 「金銭面のサポートが欲しい」「仕事の休暇を取りやすく」「参加しやすいイベント形式」	謙遜を踏まえても低すぎる結果でした。この設問に答えることで、危機感の誘発や、現実にも目を向けてもらうことにつながったのではないかと考えられます。 必要なサポートに「金銭面」や「仕事」「イベント形式」などが挙げりましたが、「事実として八方塞がりになっている」のか「自分の人生を改善していく気力が足りない」のか測りかねますが、「自らが結婚しやすいように工夫する」ということが不足しているようにも感じられます。 イベント／合コン／お見合い、それぞれ向き不向きは一人一人違います。また、どの手段も様々な種類があるため、まずは「いまどきの婚活」について知り、「結婚しやすくする」にはどのように工夫していけば良いのか…を見つけていく必要があります。セミナー動画や木曽郡連携型の結婚支援事業でも紹介していますので、周知していきたいと思えます。また、金銭面については、補助金制度を令和2年度から開始しているため、引き続き支援していきたいと思えます。

設問	特徴的な回答結果をピックアップ	専門家による分析と町の見解
<p>【Q11-B】[既婚の方] 結婚に必要なことについてお伺いします。差し支えない範囲で、あなたが結婚できた要因と思われることを教えてください。</p>	<p>「色々な人と知り合ったり色々な場所へ出かけたこと」「タイミングと妥協」「自分の直感を大切にしたい」「自分の気持ちを素直に相手に伝えること」「清潔性の価値観や、金銭面の価値観が合った」「結婚に対して前向きであることを周囲に知ってもらっていた」「紹介の話などがあつた場合、会わずに決めるのではなく会ってみる」「相手がどのようにサポートしてくれるか、また自分が相手に対してサポートしていただけるか」「理想を追い求めなかった」「結婚したいという思い」「友人、知人との交流」「紹介の話はよっぽどじゃない限り断らない」「相手を探している事は、さりげなく周囲に話しておく」「勢いが必要」「一緒にいて楽しい安らげるなど安心していられると感じてもらえる」「自分自身を出して相手が受け入れてくれた事」他多数。</p>	<p>独身者に対して非常に参考になる経験談や振り返り談が寄せられました。これらは、できるだけ独身者にお伝えしたいポイントです。「広報なごそ」のアンケート結果報告について掲載する際に紹介したいと考えています。</p>
<p>【Q12】[共通] 人口減少や少子高齢化に対する地域の維持や活性化に必要なと思うこと、考えていらっしゃる事などがありましたらご記入ください。</p>	<p>「異業種交流会」「地域外から呼び込む」「公園」「医療費」「空き家」交流・サークル」「子育て環境」「海外の人」「産業」「IT産業誘致」「雇用」「PR」「就職支援・起業支援」「男女平等」「故郷に帰ってきたい仕掛け」「住む場所(住居)」「地域のコミュニティ」「教育」「不便の解消」「イベントの活性化」「町営住宅の条件緩和」</p>	<p>コメントの量から見て、たくさんの意見が寄せられました。意識や情報は入っていますが、ほとんどが「投げかけ段階」レベルで、「具体的にどうすればいいか」「なぜそれが現状で実現されていないか」「実行済みなのか」「効果がなかったのか」などの、もう一歩踏み込んだ情報までは浸透していないことがわかりました。役場では、考えられることは検討し、実行のシミュレーションをし、様々な障壁にぶつかっている…ということを知っている住民の皆さんに知っていただくことが「じゃあどうする？」に繋がり、住民を巻き込んだ問題解決に進む(=町と住民と一緒に地域活性に取り組み、地域活性につながる)のではないかと考えられます。</p>
<p>【Q13】[共通] 今後、あなたは地域を離れる可能性がありますか？</p>	<p>【離れる可能性がある】20% 【今のところない】80%</p>	<p>もちろん「地域に愛着がある」「引っ越す必要がない」などと捉えることもできますが、「収入を上げていく意識がない」や、自分を変える意識よりも、誰か(町など)にやってもらおう、変わってもらおう、合わせてもらおうという意識に”結果的に”なっている可能性も考えられます。地域の特性ではなく、全国的な風潮の一部と捉えられます。</p>
<p>【Q14】[共通] 人口の流出を抑制するために、地域づくりについて思うことがあれば教えてください。</p>	<p>「魅力づくり」「思い出づくり」「やむを得ない」「Uターン・Iターン」「働く場」「収入と時間」「離れたら困ること」「企業誘致」「高齢者中心の行政から若者中心の行政へ」「子育ては南木曾」「子供の習い事」「海外から魅力的」「歳をとって車に乗れなくなっても大丈夫に」「空き家活用」「家の増築補助金」「大型ショッピングモール」「就職斡旋」「役場職員がなぜ南木曾に住まないか調べて対策」「子育て支援」「情報発信」「人口が増えている市町村と比較」「特色ある町づくり」</p>	<p>概ねどこでも上がる意見と似たような状態ですが、「インフルエンサーに依頼」はあまり目にしない点でした。多くが、個人的な要因が起点となった発想になっています。それらができない理由や、やってみたらうまくいかなかったなどの情報が発信されていないところがある可能性も考えられます。</p>
<p>【Q15】[共通] 人口の流入を増やすため、地域づくりについて思うことがあれば教えてください。</p>	<p>「働く場所」「空き家活用」「観光地活性」「田舎に憧れる層にアプローチ」「買い物場所を増やす」「中山道・妻籠宿の活性化」「景観条例の緩和」「子育て支援」「企業誘致」「SNS活用」「インフルエンサーに依頼」「愛知からの移住なら距離的にちょうどいい」「Iターン・Uターン」「医療の充実・総合病院」「図書館などの公営施設」「流入者のフォロー」「家探しが大変だった」「老若男女の交流」「町の情報にアクセスできる環境」「今の子供に良さを伝え、出て行っても帰ってくるように」「高校や大学に行って就職の斡旋」「移住体験」「関係人口の増加イベント」「山で遊べるよう道路の整備」「自然を活用したアスレチック」「不便の改善」</p>	<p>具体的に「それらをどのように進めれば良いか」まで触れられているところが少なく、それを考えるワークショップなどが求められており、今までとは違ったアプローチが必要というのは、どの地域でも共通することのように思われます。</p> <p>今回のアンケートを機に、やる気がある人を集め、小さなユニットから始めていくのが、将来的な大きな流れにつながるのではないかと思います。</p>

設問	特徴的な回答結果をピックアップ	専門家による分析と町の見解
<p>【Q16】【共通】地域づくりについて、ご協力いただけることや、参加したいことなどがありましたら教えてください。</p>	<p>「ワークショップ」「SNSなどの情報発信」「児童向けプログラミング・電子工作クラブ運営」「何かお手伝いできることがあればいつでもご連絡ください」「やれることはやっているが、知らないことが多い。要望があれば考慮する」「なんでも!!」「空き家対策・整備」「空いた時間にバイトできるような仕組みはどうか？（シルバーで人手不足、若い人にも入って欲しい）」「建物の管理（燃料費などの補助があると嬉しい）」「ミンツクの進化した感じ」「ワークキャンプ主催」</p>	<p>様々なスキルを持った方が隠れていることが察せられました。ポイントは、町の全体像を総合的に見ることから始まり、急所を見定め、根本的な原因の仮説を立て、テストしていくことではないかと思われます。</p> <p>政策ごとの連携や有機性が取れていないことで、行き当たりばったりや、継続性のない施策になることが一般的です。発展性があり、派生していく可能性を模索した急所を打つ施策が求められます。最近のおすすめは「住民の満足度向上に集中する」「コンパクト化する」などになります。</p>
<p>【Q17】【共通】南木曾町では主に20～40代前半の方を中心とした『町の若者まちづくり会議』の活動を行なっています。ご存知でしたか？</p>	<p>【知っていた】40% 【知らなかった】60% ※独身男性の【知らなかった】が74%</p>	<p>回答者の40%が「知っていた」のは、周知ができていない数値のような印象です。独身男性のみ「知らなかった」が多く、地域・消防団活動が忙しいのか、違和感を感じます。こういった違和感を感じる部分にヒントがありますので、掘り下げていくことを検討する必要があります。</p>
<p>【Q18】【共通】『町の若者まちづくり会議』の活動にご協力いただくことは可能ですか？</p>	<p>【協力できる】38%（既婚男性がやや多い） 【協力できない】62%</p>	<p>多数の意見が寄せられる中、結局「では、あなたは手伝ってくれますか？」という質問をされ、ハツとした方もいらっしゃるかと思います。</p> <p>意見を聞き出すと共に、情報を発信し、町の状況を考えていただくための締めくくりとして用意した設問になります。</p> <p>全体の人数に比べると少人数とは思いますが、協力できる人がいるということの前向きにとらえていきたいと思えます。少人数であっても、一緒に取り組んでくれる「起点」となる人が必要だと考えられます。</p>
<p>【Q19】【共通】今回のアンケート全体を通して、思ったこと感じたことなど、ご自由にご記入ください。</p>	<p>「アンケート分析用分類データ」をご覧ください。</p>	<p>アンケートの意図に気づいた方はほぼいなかったように見えたが、たくさんの意見を抽出することができています。</p> <p>「アンケート結果を反映させて欲しい」という意見が特徴的でしたが、住民の町づくりに対する意識は、潜在的に高いことが感じられます。</p>
<p>【Q20】【共通】自由記入欄（事務局へのメッセージなど、ご自由にご記入ください）</p>	<p>「町民の意識改革が必要だと思います。もっと危機感を持つべき。行政はそこをもっと町民に説明して欲しい。」「コロナ渦によりイベントの制限などに苦慮されていると思いますが頑張ってください。できることはお手伝いします」「TVでたまにやっている「ナイナイのお見合い大作戦」みたいな婚活イベントを開催したらどうですか？」「婚活イベントなど、どんどん開催して若い方々が増えとうれしいです」「応援しています!!」「将来の町のために頑張っていてステキです」</p>	<p>全体的に「人まかせな印象」が抽出されてしまいましたが、活動をポジティブに捉え、応援してくれるメッセージが入ったことは、「見てくれている人はいる」ことがわかります。</p> <p>過去から積み上げてこられた結婚支援の結果かと思えますので、これらの資源を再度掘り起こし、つなぎ直し、現代の状況に合わせた再構築が必要になるのは当然のことですが、「常識的」「普通」という範疇の発想では、現状を打破できませんので、根本を覆すような施策が求められています。これは、南木曾町だけでなく、国内全域に言えることのように思われます。</p> <p>来年度事業に活かしていきたいと思えます。</p>